

11月のNHKスペシャル

認知症800万人時代 どう向き合うか？

放送：総合テレビ 11月23日（土）・24日（日）午後9:00～（2夜連続）

今年、厚生労働省の研究班は、認知症高齢者が推定462万人、予備軍を含めると800万人に上ると発表した。そうした中、国は今年度から新たな認知症施策の5か年計画「オレンジプラン」をスタート。認知症の人を施設ではなく、住み慣れた自宅などで介護する「在宅型」へと大きく舵を切ろうとしている。

自宅で介護するということはどういうことなのか。その時家族は…。一方で、一人暮らしの高齢者が増え続ける現実とどう向き合っていけばいいのか。

認知症800万人時代——。11月のNHKスペシャルは、在宅介護や“漂流”する高齢者の現実を見つめ、私たちが向き合うべき課題を浮き彫りにするドキュメンタリーを2夜連続で放送します。

11月23日（土）後9:00～10:13 放送

母と息子の介護記録～認知症800万人時代への処方箋～（仮）



もしも、認知症の家族を家で介護することになったら、それをどう支えていくのか。それを考える上で画期的な映像記録がある。記録したのは、元NHKディレクターの相田洋（77）。母親の認知症発見から最期を看取るところまで、在宅介護の一部始終を3000日にわたり撮影し続けた。市井の家族が介護に格闘する日々をつぶさに捉えた映像は、これまでにない貴重な資料として専門家からも高く評価されている。

番組ではこの映像記録をもとに、医療や福祉など第一線の専門家が、日本の認知症介護の現実と課題について熱く議論を戦わせながら、認知症800万人時代の処方箋を探っていく。

11月24日（日）後9:00～9:49 放送

頼れる人はどこに～老人漂流社会Ⅱ～（仮）

今年1月放送したNHKスペシャル「終の住処はどこに～老人漂流社会～」は、高齢者が3000万人を超え、介護施設に入れず、居場所を転々とせざるを得ない厳しい現実を伝えた。

今、さらに事態を深刻化させているのが「一人暮らし」で「認知症」を患う高齢者の急増だ。「助けて」と、SOSを発することもできず、周囲も気づくことができない。徘徊やゴミ屋敷などによって顕在化しても、すでに認知症が悪化し意思が確認できないため、介護サービスにつなげることができないのだ。

番組では、連日通報が寄せられる「地域包括支援センター」に密着。ごく当たり前の人生を送ってきた高齢者が、救いの手が差し伸べられないまま放置され、“漂流”していく実態を追う。さらに、社会保障費を抑制せざるを得ない今、どうしていくべきか。現場の模索を追う中で解決へのヒントを探る。

